

平成31年2月14日13:10～17:00
カキのノロウイルス検査法（感染性推定遺伝子検査法）の研修

カキのノロウイルス対策に関する 今後の取組について

農林水産省消費・安全局
食品安全政策課

カキのノロウイルス対策に関する情報交換会①

- ノロウイルス（NoV）による食中毒は、国内で報告された食中毒事件の2割及び食中毒患者の5割を占めている（平成29年）。
- NoV食中毒の発生防止に向けて、昨年12月17日（月）、主要生産県(11)及び研究者等が集まり、カキのNoVに関する研究や対策など国内外の現状と課題について情報を共有した。

カキのノロウイルス対策に関する情報交換会②

➤ 共有された認識

- ✓ NoVに汚染されていない清浄な海域での養殖がカキのNoV対策の基本。
- ✓ そのための海域や、そこで養殖されたカキのNoV清浄性について、目標を設定し、（定量的な）管理を検討することが重要。
- ✓ 製品検査型の管理から、生産工程（海域）型の管理に移行するための手段として、三重県が実施している海域の汚染を総合的に判断するシステムや、海水中でNoVの挙動と類似する指標を対象としたモニタリングについて検討が必要（ファージを用いた研究を実施中）。

3

カキのノロウイルス対策に関する情報交換会③

➤ 今後の課題

1. カキ中のNoVについて平常時の水準を明らかにするため、より信頼性の高い検査結果を得るための体制（カキのサンプリング法、検査法、検査精度管理等）を検討する必要がある。
2. 平常時の水準を明らかにし、管理及びその効果を検証する必要がある（欧州13カ国は2016年より、平常時の水準について調査を実施）。



4

カキのノロウイルス対策に関する情報交換会④

- 「今後の課題」の解決に向けて、関係者の連携が必要なこと

1. 検査精度管理を含めた生産地におけるカキのNoV検査体制の検討。
2. 「1」を用いた生産海域のカキ中のNoVについて平常時の水準を明らかにするとともに、その結果に基づく対策の検討。
3. 海域の清浄性に基づいた管理を実施するために必要な情報（感染性胃腸炎の流行、生産地の環境、NoVの代替指標であるファージ等）の収集とその活用方法の検討。

5

ご静聴ありがとうございました



6